



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行者 齋藤 庄司
編集者 沢田 光広
TEL 019-622-5021
メールアドレス nrumori@poem.ocn.ne.jp

2012.4.10
第1444号

拡大キャッチコピー

「新しい仲間づくりを 皆の力で」
「一緒に解消しませんか、 あなたの疑問。 加入ってます」

原発はいらない 3.11福島集会

福島の代表団から痛切な訴え

岩手・青森からも代表団164人が参加

大震災の重大事故から1年が経過した3月11日に「原発はいらない! 3・11福島県民大会」が福島県郡山市の開成山球場で16000人が参加し開催された。国労からも平和環境岩手県センター188人の代表団の一員として9人、青森平和労組会議76人の代表団の一員として4人が参加した。両県ともバス移動での参加となった。

集会では、福島県民代表者の痛切な訴えの音が発せられ、安心して暮らせるふるさと福島を取り戻す運動、反・脱原発の取り組みが集会・デモ行進で訴えられた。集会に参加した及川孝(盛岡電気分会)、阿保光春(青森運輸区分会)さんの寄稿を掲載し報告とする。

原発NOを訴え続けよう

盛岡電気分会 及川 孝

大震災・原発事故から1年になる3月11日、福島県民大会に参加してきました。原発事故の関心は高く全国から



「会場の球場に陣取る岩手県代表団」

集まった参加者は内野席では入り切らず比較的放射線量の高い外野芝生席まで立ち入るほどでした。

加藤登紀子さんによる「脱原発」の訴えと心に響くメッセージが披露され、その後集会が開催されました。集会では6人の福島県民より「見えない放射線量が降り注ぎ、体に影響が出るのではと不安。子どものことを考え山形県に自主避難した」(女性)「自然と対立するのが原発。農業と原発、人間と原発は共存できない」(男性)「原発事故で飯館村の農家は農地も牛も全てを失った。高い放射線量の中で水道水も飲んできた。どこに安全があるのか。これは天災ではなく人災だ」(男性)「転校し被災者となった。原発で津波の被害に遭っている人を助けに行くこともできない。人の命も守れないのに経済とか言っている場合ではない。未来を一緒に考えて行こう」(女子学生)との痛切な訴えがありました。

東日本大震災・福島原発事故1周年を迎えた3月11日、郡山市の開成山球場に於いて「原発はいらない! 3・11福島県民大会」が開催され、青森平和労組会議の代表団として参加しました。集会のオープニングコンサートで歌手の加藤登紀子さん

青森県代表団

怒りをシュプレコール

青森運輸区分会 阿保 光春

が、原発事故から立ちあがるうと奮闘している福島県民に、勇気と希望を与える歌声を熱唱しました。14時からの大集会では呼びかけ人代表で福島大学副学長の清水修二さんから「原発事故から、一緒に助け合って立ち向かわなければならぬ」と

私たちの力をバラバラにしてしまふのが放射能です。この分断を乗り越えて、心を一つにして前に進もう」と挨拶がありました。

その後福島県内の呼びかけ人から、原発事故により避難を余儀なくされている実態・放射能に汚染されている土地を離れず耕している農家の苦悩などが報告されました。あらためて原発事故・放射能の恐ろしさが浮き彫りになりました。

盛岡支部は7月に、青森支部は9月に、地方本部は9月と、それぞれに組織拡大対策会議を予定している。成果と課題を持ち寄るべく、組合員一人ひとりの奮闘を節にお願する。

北上市議選挙

星あつ子さん9位で当選



=謝意を述べる星さん=

北上市議会議員選挙(定数26)の投票が3月25日に行われた。組織内候補の社民党公認の星あつ子さん(53)は国労組合員、支援単組、退職者の会、地元の方々から大きな支援を受けながら選挙戦を展開、1689票を獲得し第9位で3度目の当選を果たした。

当面の主な日程

- ▽4月11日(盛岡) 第7回地本執行委員会
- ▽4月14日(盛岡) 盛岡支部春闘交流会
- ▽4月21日(大宮) 東日本本部助役試験合格者交流会
- ▽5月1日(各地区) 第83回メーデー
- ▽5月17・18日(東京) 第13回東日本本部軟式野球大会
- ▽5月19日(盛岡) 岩手県交運労協学習交流会

平田ミイ子さんの議席確保に協力を 4月22日投票大船渡市議選

大船渡市議会議員選挙(定数20)が、4月15日告示、同日22日投票で実施される。

皆で出来ることをしっかりと職場で

「地本・支部役員組織対策会議」

一括和解以降、東日本本部内で99名の組織拡大となる中、地方本部としても拡大に全力を挙げていかなければならぬ。そこで、地方本部は3月20日、「第2回地方本部・支部役員組織対策会議」を青森市・国労青森支部会館にて開催し、地本・各支部役員計18人が出席して組織拡大に向けた意思統一を図った。

会議は齋藤委員長を座長に選出し、進行。「分会の現状と課題を把握し、4月の各地区集会へ運動した取り組み」との佐々木書記長の提起

に引き続き、両支部から報告を受けた。共通して言えることは、創意工夫した取り組みを積極的に行っている分会の一方で取り組み方自体に悩んでいる分会もあるなど、分会毎の「温度差」が大きくなっていることにある。分会の「形」に合わせての指導・助言が重要であることは言うまでもなく、そのために丁寧な現状分析の必要性を改めて全体で確認した。

幼い頃岩泉で育った。5歳から9歳までの5年間、父母の仕事の関係で、山の中の町であったが宇霊羅山がそびえ、龍泉洞があり風光明媚で穏やかでとてもいい町だ。記憶の中で初めて列車で旅行したのは岩泉線だった。当時は小本線と呼ばれた浅内が終着駅だった。浅内駅から母の実家の最寄駅、陸中山田駅までだった。私には幼い時の記憶が詰まったとても思い出深い線路だ。岩泉線は特定地方交通線の第2次廃止対象路線に選定されたが、国道340号線が代替道路に不適当として廃止申請が取り下げられた経緯を持つ。現在、岩泉線は一昨年7月の土砂崩れによる脱線事故により全線が運転を見合わせている。地元にとって通学・通院となくてはならない生活に密着した路線であることは言うまでもなく、早期復旧を待ち望んでいる。1月岩泉で9000人が参加した「JR岩泉線早期復旧住民決起大会」が開催された。参加した利用者からは「マイクロボスの代行は急勾配・急カーブなどで体調不良になる」との報告があり、「一日も早い運転再開が住民の明日への希望となる」という事が全体で確認された。集会は成功裏に終了した。3月30日JRは130億円の費用・長期の工期や、乗客が年々減少している事を理由に、地元の希望を無視し鉄道としての復旧を断念すると発表した。地元の皆さんには十分な説明と協議を丁寧に行うとしている。しかし、バスを運転する国道は昔のままである。地元の方々が納得するはずもない。山田線・大船渡線と合わせ、鉄道の再開を求め住民の皆さんと闘い続ける事を決意している。(B)

